

ビルマ(ミャンマー)で映像ジャーナリスト長井健司さんが治安部隊に射殺されて一カ月。「敬虔な仏教国」のイメージが吹き飛んだ悲劇的な事件は、軍事政権がいかに非情であるか、日本人の脳裏に刻み込んだ。軍政は反対する者に対して容赦しない。ヤンゴンから陸路でタイ側に脱出した三十一歳の僧侶は外国通信社に対し、恐怖の体験を次のように語る。

「軍隊は大量の兵士を動員して夜間に僧院を襲撃している。僧侶は日中は大丈夫だが夜間を恐れている。在家信者も僧侶をかくまうと、罰せられることを恐れている。本人の代わりに家族が捕まっている」

### 切迫した状況

僧侶たちは各地で反政府行動の急先鋒として街頭に出た。仏教の教えに即した正しい政治を求めて軍政を論ずる平和的な示威行動だったといえる。誤った政治が物価の急騰を招き、国民を苦しめ、自由も奪われているという認識だろう。本来は寺院で修行に専念する三カ月間の「雨安居」の時、街頭に出たことからも、切迫した状況と積年の不満がうかがい知れる。

ビルマでは僧侶は信仰の

### 山本宗補



やまもと・むねすけ フォトジャーナリスト。1953年長野県生まれ。88年からビルマの少数民族や民主化闘争を取材。98年、スー・チー氏への4回目のインタビュー直

後、国外追放された。中国地方では沖家室島(山口県周防大島町)に取材した「また、大島町」日本列島老いの風景などの著書もある。東京都東久留米市在住。

## 僧侶たちはなぜ立ち上がったのか

# 大衆救う政治求める

## 仏教は「行動する憐れみ」



托鉢(たくはつ)する僧侶たちに食事を寄進し、ぬかずく市民たち=1998年、ヤンゴン市内 (山本さん撮影)

続けて獄死した。

現在の軍事政権は十九年前、全国的な民主化デモやゼネストに無差別に発砲、国民に見透かされているの殺害した。犠牲者には今回同様、デモを率いた僧侶、子ども、女性も含まれている。

### 「信者を装う」

瞑想を学ぶため私が滞在した僧院の管長。「軍政はで取材中だった私は、多数のビルマ僧がタイ側に逃げて来たところに遭遇して

答えた。

銃弾を腕に受け、重傷を負った僧侶もいた。ビルマ軍は国民に銃口を向けることをいとわない。国境地帯に住む少数民族に対しては静かな「民族浄化」作戦を続け、タイ側で約十六万人の自宅軟禁下にある

人カレン民族やカレン民族の難民が帰還の希望のない難民キャンプ生活を強いられる。

国営テレビは軍政幹部が僧院に資金や僧衣などを寄進し、仏塔の修復に熱心

であるという映像を熱心に放送する。プロパガンダ

アウン・サン・スー・チー氏はビルマで長年修行した身自給して政府に抗議したベトナム僧。エイズ問題が深刻なタイ社会でエイズ患者を引き取る最初のホスピスをはじめたタイ僧。インドでカースト制に挑戦する社会改革運動のリーダーとなつた日本人僧。

「私は『関与する仏教』を信奉しています。僧侶と尼僧にはほかの誰とも同じように正しいことや望ましいことを促進させる義務があると思います。関与する仏教は行動する憐れみです。最も救済を必要とする人々の身を案じ、自分自身でできることをすること。自分の安全を犠牲にして他の人を守るような行為です」

ビルマと同じ上座部仏教の国では、ブツダの教えに従い、信徒に正しい生き方を促すことが僧侶の本業です。筆者の希望で軍政以前の国名ビルマを使用しました。

## 僧侶の声明と舞踊家が共演

東京・護国寺で5日

舞踊家の長嶺ヤス子が、真言宗豊山派の僧侶約七十人の声明と「コラボレーション」する野外舞踊公演「熱い祈りに命をかけて」僧侶と

末期患者七人が人工呼吸器を取り外されて死亡した富山県の「射水市民病院事件」を、医療倫理問題を追うノンフィクション作家中

「『尊厳死』に尊厳はあるか」

おあしす 入場無料で事前申し込みは不要。長嶺ヤス子事務所(情通コミュニケーションズ内) ☎03(3384)7531。